

3月11日(木)

Postgraduate Medical Institute

報告：林田 昌子

---

13時にPGMIに集合し、SGH museumへ。SGH設立当初から現在までの歴史の概要が分かりやすく説明されており、敷地内建造物のジオラマや本物の毛を使ったリアルな初代医院長の動く等身大人形、透析の大きな機械や歯科治療用の椅子、そのほかにも一昔前に使用していた医療器具、天秤などが展示されており、貴重な歴史の遺産に触れることができました。



14時頃よりSGH residentsとのdiscussionということで、まずこの1週間を通しての感想(2分程度)を各自発表しました。そして、本日参加して下さったそれぞれの視察受け入れグループのDr方にもコメントをいただきました。

その後、discussionの時間を頂き、私たち麻酔科グループではこの3日間を通して疑問に思ったこと、特に麻酔科専門医をとるDr達の研修プログラムについて説明していただきました。SGHの麻酔科Dr達は、大学を卒業した後、1年間internshipを行い、次の年からresidencyを開始。4年かけて6病院でgeneral trainingを積んだ後、6年間のadvanced trainingを行い専門性を深め、試験を通れば一人で麻酔管理を行えるconsultantになれるそうです。Consultantになると、時期は決まっていませんが1年間海外の提携病院での麻酔研修を行うそうです。こうしたプログラムは属する病院によって異なるそうです。

今日はSGH、PGMI最後の日ということで、皆で記念撮影を行いました。



〈左：感想を英語で発表するDr. 伊瀬〉